



学校だより 1月号

令和6年1月9日（家庭数配付）

このたびの能登地方を震源とする地震により亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。1日も早く被災された方々に平穏な日々が戻りますことをお祈り申し上げます。

60周年の年

校長 足立 渉

新年、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

令和6年が始まりました。飾られていた門松などの正月飾りも、7日の松の内が過ぎたことで片づけられたご家庭も多いのではないのでしょうか。まちからお正月の雰囲気もなくなり、本日からいよいよ学校が始まりました。冬休みはクリスマス、お正月と、家族でゆっくりと過ごすことができるので、登校してくる子どもの顔もとても穏やかな表情に感じました。きっと家族や親族とのよい団欒の時間を過ごしたのだろうと、とてもうれしく思いました。



さて、今年は、創立60周年の年にあたります。私も永田小の歴史を知るために、周年ごとの記念誌を読み、学校の歴史と共に、本校にかける人々の思いを振り返っています。今からは想像できない様々なエピソードも記されていて、とても興味深い内容です。そこで、今年は学校だよりや朝会などで60年の歴史を少しずつ振り返り、周年行事に向かう気持ちを高めていこうと思っています。

【10月1日開校記念日の謎】

1965年（昭和40年）4月1日に永田小は開校しました。でも開校記念日は10月1日となっています。それはなぜでしょう？記念誌にはこう書かれています。「本来開校記念日は開校した4月1日であるべきですが、そうすると春休み中のため愛校精神を養うことができない。そのため、1959年（昭和34年）井土ヶ谷小永田分校がこの地にでき、実際に子どもたちの授業が始まった10月1日を本校の開校記念日としたそうです。」

【ふわふわ校庭の謎】

最初にこの地に分校として学校ができたころの校庭は、歩くとふわふわしたそうです。なぜでしょう？「それは田んぼを埋め立てて校庭にしたので、歩くとふわふわしたようです。その校庭は掘ると水が出てきて、どじょうがとれることもあったそうです。そのどじょうをかば焼きにして食べた先生もいたようです。」

学校の歴史を紐解くと、今からは想像できない話がたくさん出てきます。そしてそれら一つひとつのつながりが、60年の歴史になっています。子どもたちに少しずつ伝えていくことで、永田小の60周年を祝う気持ち、そして永田のまちを愛する思いにつなげていきます。今年もよろしくお願いたします。